翻刻「トリック写真の研究」

〈解題〉

江戸川乱歩が、みずからの活動の記録を集め「貼雑年譜」というスクラップブックを作成したことはよく知られている。その記録のもとになったのが、作家以前の様々な原稿やメモを集めた封筒である。それらは書かれた時期とジャンルから「MOVIE」「EXTRAORDINARY」「ECONOMICS」などと題されている。

そのうち「MOVIE」に入っていたものは以下の五点である。

「写真劇の優越性について」
「トリック写真の研究」
「映画論」
「活動写真のトリックを論ず。」
「トリック分類草稿」（メモ的なもの）

今回紹介するのは「トリック写真の研究」である。

この資料は、活動写真の撮影方法について分類し、記述したものである。原稿冒頭にある「はしがき」の記述によれば、「この一文は大正六年六月に書いたものを、此頃書き直したものです」とある。また、本論の一枚目には、参考とした上野図書館の文献が挙げられていて「大正六年六月にこの論を書いたのだから其後或は新しいものが来てゐるかも知れない」と付け加えられている。そして、「はしがき」が書かれたのは、「大正九年七月」となっている。つまり元になった部分は大正六年六月に作成され、このようなかたちでまとめられたのが、大正九年七月ということになる。

若き日の乱歩、すなわち二十代の平井太郎が、映画とどのようにかかわったか、あるいはかかわろうとしたかについては、以前のいくつかの解説、特に前々号の「活動写真のトリックを論ず。」を紹介した際にも記したので、そちらも参照してほしい。

簡単にまとめると、以下のようになる。乱歩は早稲田大学を大正五年に卒業し、加藤洋行という貿易会社に勤務するが、六年五月に辞めてしまう。一ケ月ほど放浪の後、東京に着く。ここで一カ月ほど過ごすが、その間、活動写真会社や弁士を訪問している。翌七月には大阪へ呼び戻され

ることになるので、この約一ケ月間が、映画と強くかかわった期間だったことになる。大阪でセールスをし、鳥羽で造船所に勤務した後、大正八年二月、東京に戻り古書店を開いた。この「三人書房」時代は大正九年十月までで、その間に、映画論をまとめ、映画会社に送るといったことをしている。映画監督見習いとして採用されることを希望したのだが、会社からは何の回答もなかったと「貼雑年譜」にはある。「MOVIE」の袋にある資料は、この際の草稿や複写といったものである。

この「トリック写真の研究」は、前々号で紹介した「活動写真のトリックを論ず。」と重なる部分が多い。「活動写真のトリックを論ず。」は、映画におけるトリックの意義とその分類であった。そこでは、後半部の分類の方は途中から箇条書きになり、説明が書かれていなかった。詳細とまではいかないが、この「トリック写真の研究」ではそれが書かれており、補完するものになっていると言えるだろう。

さて、「トリック写真の研究」の、「はしがき」につづく一枚目冒頭には、「未定稿「活動寫眞の研究」の一節」とあって、「トリック寫眞の類別につきて」と題された文章になっている。

乱歩はまず、権田、Hulfish、Rathbun の、三者の分類をそれぞれ示す。そして、それらの記述が「只並べたといふ様なものに過ぎない」ために、「著者の方では脱漏をきづかぬ様なことがあり、讀者の方では明瞭にトリックといふものをつかむことが難しい」。そしてこれらは「讀みづらい」と批判する。そしてみずからの分類を展開する。

活動写真のトリックを、以下のように大きく四つに分ける。

(1) 撮影機の把手にある種の変化を加ふるもの
(2) 撮影機のレンズにある種の変化を加ふるもの
(3) フィルムにある種の変化を加ふるもの
(4) 撮影機以外の装置に関するもの

このように「トリック撮影の主たる原因」、つまりどのような方法を用いるかによって大きく分け、さらにそれぞれについて、どういった技法があるのかを示していった。乱歩は主として文献から得たトリックの知識を分類していったようだが、ところどころに自身の経験のようなものを見ることもできる。

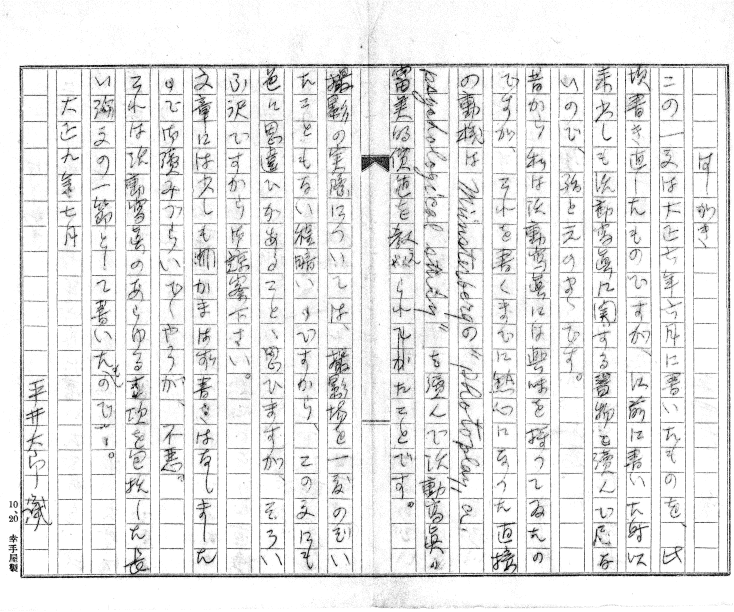
この原稿は最後に「（おはり）」と書かれていて、ひとつの完結した文章として受け取ることができる。しかし「はしがき」に、「長い論文の一節として書いた」とあるように、ここにはトリックの分類と紹介の部分を抜き出したものでもある。トリック撮影や、あるいは活動写真というものについての、乱歩なりの解釈や意味付けといったところには、残念ながら踏み込んでいない。

わずかに末尾に、活動写真の今後の方向性について、谷崎やポーのような「美しく怖ろしいもの」の映像化にはトリックの応用が必要であると述べ、「トリックの進むべき道は、散文詩の方向である」と結んでいるところに、乱歩の考えが見える。

たとえば谷崎潤一郎の「活動写真の現在と将来」という文章は「新小説」大正六年八月号の掲載であり、他にも活動写真についての文章をいくつも発表していた時期であるから、乱歩がこういったものを強く意識していたであろうことがうかがわれる。

このように、乱歩のトリック分類への情熱はその作家としての出発以前までさかのぼることができるのであった。古今東西の探偵小説をまとめた手製の本『奇譚』が作成されたのが大正四年ごろである。つまり、探偵小説への興味とほぼ並行して、映像のトリックへの興味が存在しており、これがはるか後の探偵小説のトリック分類へとつながっていることがわかる。現存する乱歩資料の中で、探偵小説のトリック分類の最も古いものはおそらく「欺瞞系譜」と題された表で、昭和二十三年八月の作成である。探偵小説のトリックを映画の撮影方法のように分類するという発想は、すでに大正期からあったものなのか、あるいは、ある時期に若き日の原稿を整理しているなかで着想を得たものなのか。小説作品への影響などとも合わせて、検討する価値のある問題ではないかと思う。

落合　教幸
（立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術調査員）



[　]消してある部分　　(　)挿入部分
■　ぬりつぶしてある文字　　□　判読できなかった文字

トリック寫眞の研究

はしがき

この一文は大正六年六月に書いたものを、此頃書き直したものですが、以前に書いた時以来少しも活動寫眞に関する書物を讀んで居ないので、殆ど元のまゝです。

昔から私は活動寫眞には興味を持ってゐたのですが、これを書くまでに熱心になった直接の動機は Münsterberg の "Photoplay, a psychological study" を讀んで活動寫眞□審美的価値を教えられ[てか]たことです。

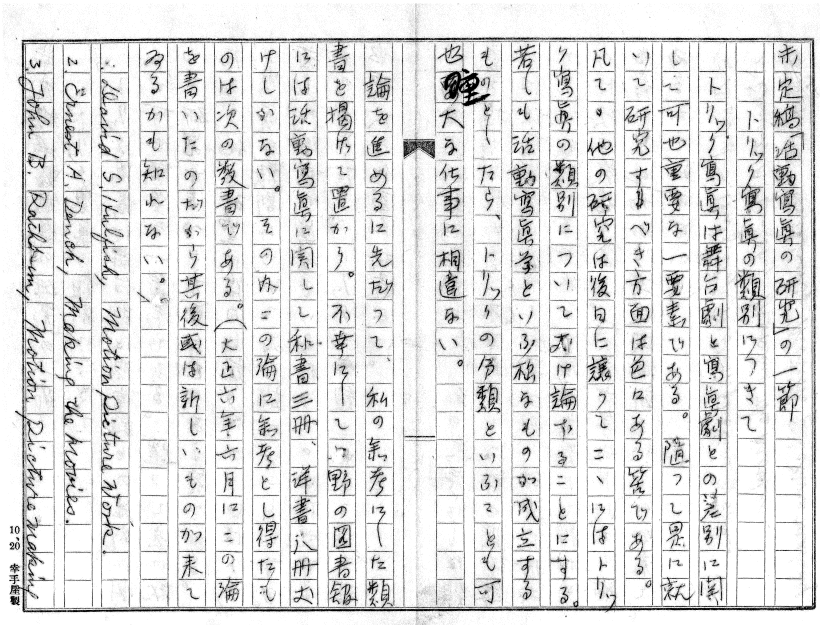
撮影の実際については、撮影場を一度のぞいたこともない程暗い□ですから、この文にも色々思違ひがあること、思ひますが、そういふ訳ですから御諒察下さい。

文章には少しも■かまはず書きはなしましたので、御讀みづらいでしやうが、不悪。

これは活動寫眞のあらゆる事項を包括した長い論文の一節として書いた(も)のです。

大正九年七月

平井太郎　識



未定稿「活動寫眞の研究」の一節

トリック寫眞の類別につきて

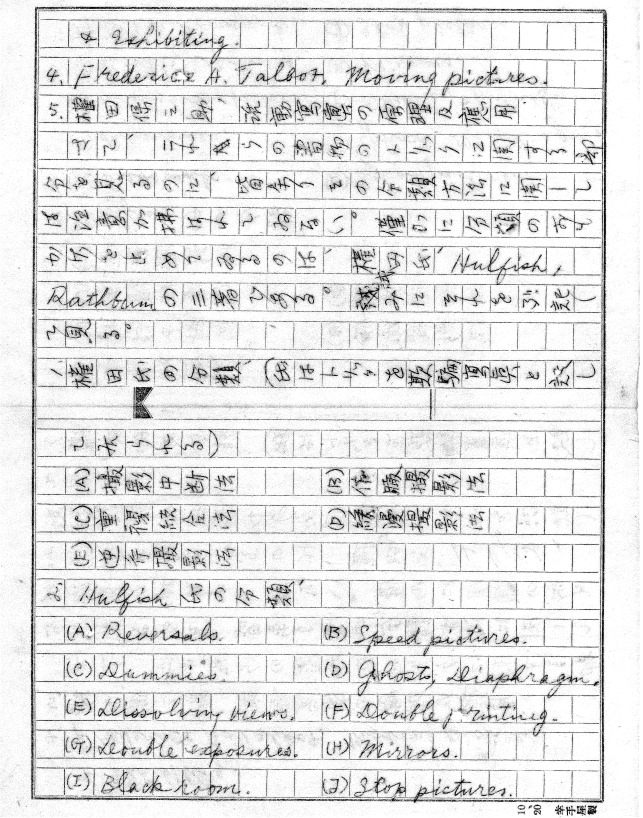
トリック寫眞は舞台劇と寫眞劇との差別に関して可也重要な一要素である。隨って是に就いて研究す[る]べき方面は色々ある筈である。

凡ての他の研究は後日に譲ってこゝにはトリック寫眞の類別について丈け論ずることにする。若しも活動寫眞学といふ様なものが成立するものとしたら、トリックの分類といふことも可也[要]〔重〕大な仕事に相違ない。

論を進めるに先だって、私の参考にした類書を掲げて置かう。不幸にして上野の図書館には活動寫眞に関して和書三冊、洋書八冊丈けしかない。その内この論に参考とし得たものは次の数書である。（大正六年六月にこの論を書いたのだから其後或は新しいものが来てゐるかも知れない。）

1. David S. Hulfish, Motion Picture Work.
2. Ernest A. Dench, Making the Movies.
3. John B. Rathbun, Motion Picture Making & Exhibiting.
4. Frederic A. Talbot, Moving Picturs.
5. 権田保之助、活動寫眞の原理及應用

さて、これ■らの書物のトリックに関する部分を見るのに、皆余りその分類方法に関しては注意が拂はれてゐない。



僅かに分類のおもかげを止めてゐるのは、権田氏、Hulfish, Rathbun の三著である。■ 試みにそれを列記して見る。

1、権田氏の分類、（氏はトリックを欺騙寫眞と訳して居られる）

(A) 撮影中断法　　(B) 俯瞰撮影法
(C) 重複統合法　　(D) 緩漫撮影法
(E) 逆行撮影法

2、Hulfish 氏の分類、

(A) Reversals　　(B) Speed pictures
(C) Dummies　　(D) Ghosts, Diaphragm
(E) Dissolving views　　(F) Double Printing
(G) Double exposures　　(H) Mirrors
(I) Black room　　(J) Stop pictures

3、Rathbun 氏の分類、

(A) By periodical starting & stopping the camera
(B) By reversing the routine on certain portions of the film
(C) By making two superimposed impressions on a single camera
(D) By substituting small scale model

(E) Black room

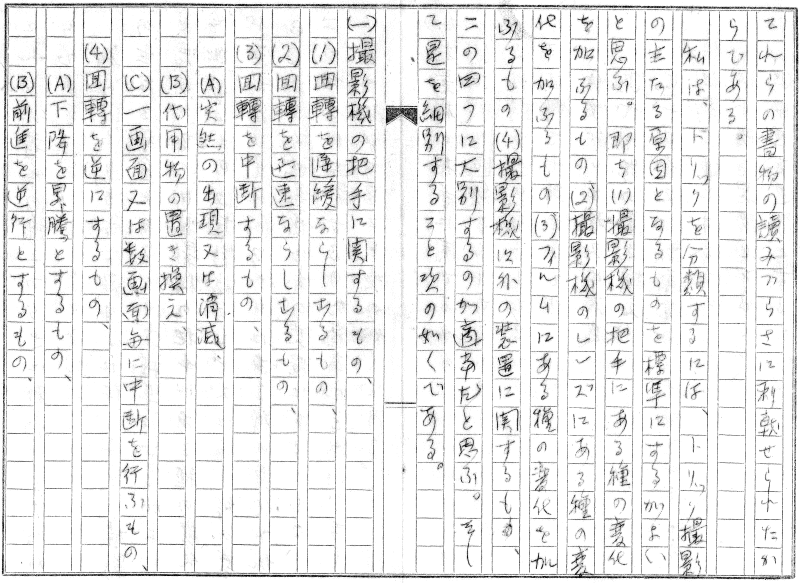
(F) Mirrors

この様に極めて非論理的な、只並べたといふ様なものに過ぎない。こんな風に知って居るものを唯だ秩序もなく並べる記述■による時は著者の方では脱漏を気づかぬ様なことがあり、讀者の方では明瞭にトリックといふものをつかむことが難しい。その証據には、上記の三つの分類を比較して見ると、一方に記されて居て、一方に記され「て」居ない様なものが直ぐ見つかるのである。何よりも、こう云ふ風に雑然と書かれた書物は讀みづらい。私がトリックの分類といふ様なことを考へ出したのもこれらの書物の讀みづらさに刺戟せられたからである。

私は、トリックを分類するには、トリック撮影の主たる原因となるものを標準にするがよいと思ふ。即ち(1)撮影機の把手にある種の変化を加ふるもの、(2)撮影機のレンズにある種の変化を加ふるもの、(3)フィルムにある種の変化を加ふるもの、(4)撮影機以外の装置に関するもの、この四つに大別するのが適当だと思ふ。そして是を細別すること次の如くである。

㈠ 撮影機の把手に関するもの、

(1) 回転を遅緩ならしむるもの、



てみらの書物の讀み方らさに利益せられたからひある。

私は、下りゝを分類するには、下りゝ撮影の主なる要因となるものを標準にするかよくと思ふ。即ち(1)撮影機の把手にある種の変化を加ふるもの(2)撮影機のレンズにある種の変化を加ふるもの(3)フィルムにある種の変化を加ふるもの(4)撮影機以外の装置に関するもの、この四つに大別するのが適あたると思ふ。そして是を細別することゝ次のかくである。

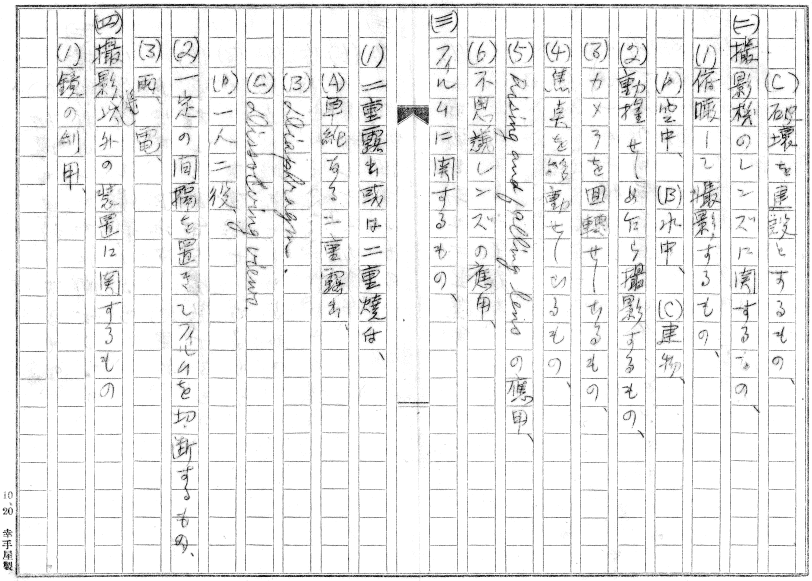
(一)撮影機の把手に関するもの、
(1)回轉を遲緩ならしむるもの、
(2)回轉を迅速ならしむるもの、
(3)回轉を中断するもの、
(A)突然の出現又は消滅、
(B)代用物の置き換え、
(C)一画面又は数画面毎に中断を行ふもの、
(4)回轉を逆にするもの、
(A)下降を昇騰とするもの、
(B)前進を逆行とするもの、

10・20 幸手屋製

(2)回轉を迅速ならしむるもの、
(3)回轉を中断するもの、
(A)突然の出現又は消滅
(B)代用物の置き換え、
(C)一画面又は数画面毎に中断を行ふもの、
(4)回轉を逆にするもの、
(A)下降を昇騰とするもの、
(B)前進を逆行とするもの、

(二)撮影機のレンズに関するもの、
(1)俯瞰して撮影するもの、
(A)空中、(B)水中、(C)建物、
(2)動揺せしめ乍ら撮影するもの、
(3)カメラを回轉せしむるもの、
(4)焦点を移動せしむるもの、
(5)Rising and falling lens の應用
(6)不思議レンズの應用、

(三)フィルムに関するもの、
(1)二重露出或は二重焼付、
(A)単純なる二重露出、
(B)Diaphragm



(C)Dissolving views

(D)一人二役

(2)一定の間隔を置きてフィルムを切断するもの、

(3)雨、電、

㈣撮影「機」以外の装置に関するもの

(1)鏡の利用、

(2)暗室の利用、

(3)代用品の使用、

(4)線條の利用、

(5)溶解寫眞、

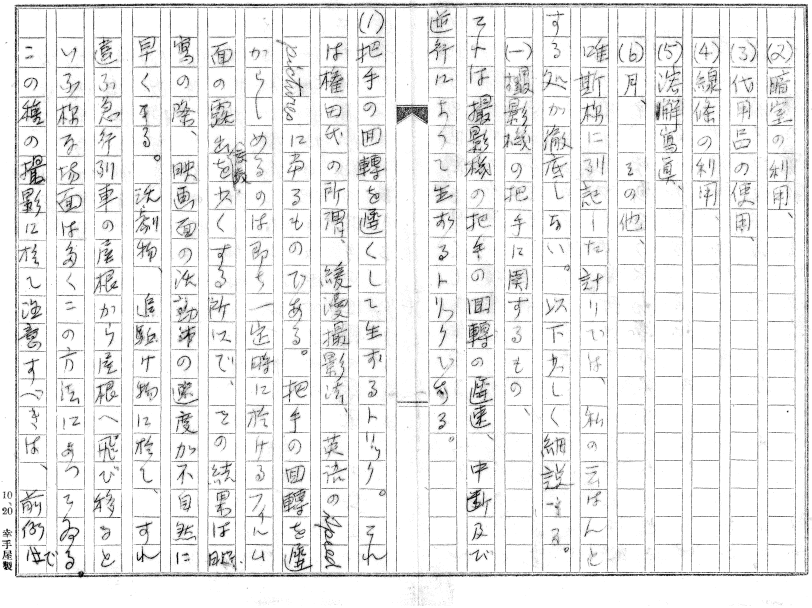
(6)月、その他

唯斯様に列記した計りでは、私の云はんとする処が徹底しない。以下少しく細説する。

㈠撮影機の把手に関するもの、

これは撮影機の把手の回轉の遲速、中断及び逆行によって生ずるトリックである。

(1)把手の回轉を遲くして生ずるトリック。これは権田氏の所謂、緩漫撮影法、英語のSpeed picturesに当るものである。把手の回轉を遲からしめるのは即ち一定時に於けるフィルム面の露出「度数」を少くする所以で、その結果は映寫の際、映画面の活動体の速度が不自然に早くな



(12)寫眞の利用、
(13)位置品の使用、
(14)線條の利用、
(15)諧謔寫眞、
(16)月、その他、
唯斷片に列記した計りでは、私の云ひたいことを充分徹底しない。以下少しく細說する。
(一)撮影機の把手に關するもの、
これは撮影機の把手の回轉の遲速、中斷及び逆轉によりて生ずるトリック。
(1)把手の回轉を遲くして生ずるトリック。これは權田氏の所謂、緩漫撮影法、英語の Slow picture に當るものである。把手の回轉を遲くしめるのは即ち一定時に於ける フィルム面の露出を大くする所にて、その結果は映寫の際、映画面の次動作の速度が不自然に早くなる。追駆け物、追駆け物に於て、すれ違ふ急行列車の屋根から屋根へ飛び移るといふ様な場面は多くこの方法によりて撮影せられ、前例に於て注意すべきは、

10/20 幸手屋製

る。活劇物、追駆け物に於て、すれ違ふ急行列車の屋根から屋根へ飛び移るといふ様な場面は多くこの方法によってゐる。この種の撮影に於て注意すべきは、前例［に］［で］云へば、列車の屋根を走る人の足並である。映画面では遅々として進んでゐる列車が急行列車になるのだから、その屋根を走る様に見せる為にはユックリ飛び歩かなければならぬ。多くは一秒間に幾［十］足といふ様な怪速度で走って居る映画になってゐるが、これは是非注意しなければならぬ。も一つは、この方法を用ゐる時はフィルムの露出時間が長くなるので明暗の度が［非常に］ハッキリし過ぎて、人物の顔や服装などが、■［眞］黒に寫ってしまふといふ様な失敗を演ずることがある。私は外國物でこんな寫眞を臆面もなく賣出してゐるのを見たことがある。

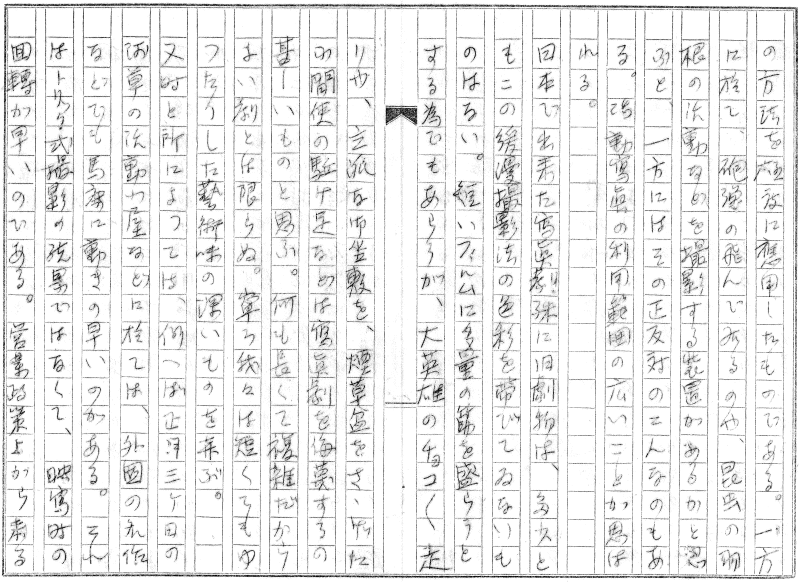
喜劇物にはこの方法が可也頻繁に應用せられる。見る間に朝日が昇ったり、夕日が沈んだりする寫眞を見るが、あれもこの方法によったものである。もっとひどいのは、種を播いて、芽が出て、花が咲いて、實を結ぶまでを十分位で見せる寫眞がある。あれ等はこの方法を極度に應用したものである。一方に於て、砲弾の飛んでゐるのや、昆虫の羽根の活動などを撮影する装置がある

10・20 幸手屋製

かと思ふと、一方にはその正反対のこんなものもある。活動寫眞の利用範囲の広いことが思はれる。

日本で出来た寫眞劇殊に旧劇物は、多少ともこの緩漫撮影法の色彩を帯びてゐないものはない。短いフィルムに多量の筋を盛らうとする為でもあらうが、大英雄のチョコ〳〵走りや、立派な御坐敷を、煙草盆をさゝげた小間使の駈け足などは寫眞劇を侮蔑するの甚しいものと思ふ。何も長くて複雑だからよい劇とは限らぬ。寧ろ我々は短くてもゆったりした藝術味の深いものを喜ぶ。

又時と所によっては、例えば正月三ケ日浅草の活動小屋などに於ては、外國の名作などでも馬鹿に動きの早いのがある。これはトリック式撮影の結果ではなくて、映寫時の回轉が早いのである。営業政策上から来るのではあらうが、実に感心しない。ある時私は浅草のある小屋で、外人のすぐ後へ腰掛けて見てゐたことがある。その外人は説明の字幕が出ると、大急ぎで声を出して讀み始めるのだが、例の早回しの時だったので、大抵半分位讀むとパッと消えて了ふ。出る字幕も、出る字幕もその通りで、飛んだ舞台外の喜劇を見せられたことがあったが、外人にさへ讀めない様な早さで字幕を出す位なら、一層全然出さない方が気が利いてゐるとつく〴〵思ったことだ。

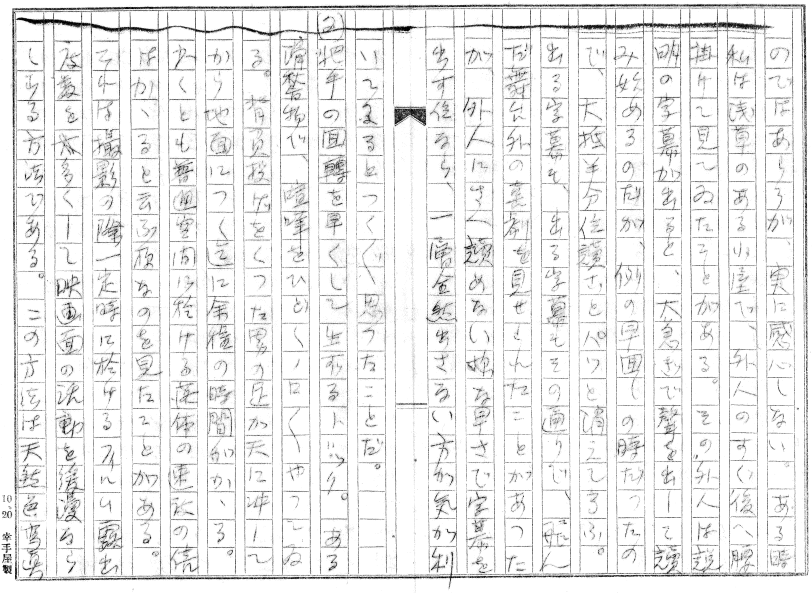


10・20　幸手尾製

(2)把手の回轉を早くして生ずるトリック。ある滑稽物で、喧嘩をひどくノロ〳〵やってゐる。背負投げをくった男の足が天に冲してから地面につく迄に余程の時間がかゝる。少くとも普通空間に於ける落体の速度の倍はかゝると云ふ様なのを見たことがある。これは撮影の際一定時に於けるフィルム露出度数を［大］多くして映画面の活動を緩漫ならしむる方法である。この方法は天然色寫眞や昆虫の活動を映す研究寫眞などにはなくて叶はぬものであるが、劇として應用の余地は広くない。それに、如何に精巧な機械の発明があったとは云へ、一定時に於けるフィルム露出度数には際限のあるもので、迚も緩漫撮影法の様に自由には行かぬ。

(3)回轉の中断によって生ずるトリック。権田氏の所謂撮影中断法で、英語の stop picture stop motion に当る。即ち撮影の際、一時撮影を中止して、被撮影物にある変化を加へた上更らに撮影を継續して、映寫の際には観衆をして一箇連續せる活動の如き幻覚を生ぜしむる方法である。

この中断的トリックを極めて広義に解釈する時は、普通の活動寫眞其物も亦一種のトリックだといふことになる。一フィルム面から次のフィルム面の間には、明かに中断


のでは、あるまいか、実に感心しない。ある時
私は浅草のある小屋で、外人のすぐ後へ腰
掛けて見てゐたことがある。その外人は頻
繁の字幕があると、大急ぎで聲を出して讀
みはじめるのだが、例の早回しの時だつたの
で、大抵半分位讀むとパッと消えてしまふ。
ある字幕を、ある字幕をその通りで、私は
舞台外の喜劇を見せられたことがあつた
が、外人にせく頻めない姿を早さで字幕を
出す度ごとに、一層金然出さない方が気が利
いてゐるをつくづく思うたことだ。
(2) 紙幕の回轉を早くして出すトリック。ある
廣告物で、噴水をひとくゝにくやつてゐ
る。背景板をくつた男が立ち天に伸び
から地面につく迄に角度の時間がかゝる。
ゆくとも舞台空間に於ける人体の速度の倩
ぼかゝると云ふ所なのを見たことがある。
これは撮影の際一定時に於ける人れ違ひ
速度を大きくして映画面の活動を緩慢ならし
める方法である。この方法は天然色写真
10・20 岸手屋製

がある。この中断が網膜の残像［現象］作用によって隠れる訳である。（これは残像作用［によるの］でないといふ説もあるが、茲には通説に従って置く）つまり活動寫眞とトリック即ち欺くといふこと、は切っても切れぬ深い関係のあることが分る。

この撮影中断の方法は、中断中に加ふ［る］変化の性質によって三つに別けることが出来る。

(A) 突然の出現或は消滅。撮影中断中に人物又は小道具その他を撮影面から取り除き或は差加へることによって生ずるトリックである。地獄の鬼が煙と共に消え失せたり、天使が突然現はれたりするのはこれであるが、多くは後に述べる二重露出法［によって］を併用する。［場合］化物屋敷の寫眞で、ドアが突［然］に壁に変ったりするのにはこの方法が適当である。役者が表情の変り目にこの方法を利用して化粧を仕直すなどはよい事だと思ふ。例えば断末魔の苦しみで、徐々に顔色の憔悴して行く所などを寫すにはこれがよいと思ふ。

(B) 代用物の置換え。英語の所謂、Dummies, stop and substitution action, substitution trick などに相当する。文字通りの意味で代用物を置換える方法である。追撃の末勢込んで摑みかゝって見れば、当の対手［の］と

中昆虫の活動を映す研究寫眞などはなくてはならぬものであるが、別として趣味の方面は、それに、如何に精巧な機械の発明があつたとは云へ、一定時に於ける フィルム露出度数には限度のあるもので、也も後傳撮影法の為に自由には行かぬ。

(3) 回轉の中斷によつて生ずるトリック。

權田式の所謂撮影中斷法で、英語の stop picture, stop motion に当る。即ち撮影の際一時撮影を中止して、被撮影物にある変化をかへた上更らに撮影を継續して、映寫の際には觀衆をして一箇連續せる活動の如き幻覺を生ぜしむる方法である。

この中斷的トリックを極めて巧妙に解説する時は、普通の活動寫眞映画も亦一種のトリックなりといふことになる。フィルム面から考へのフィルム面の間には、明かに中斷がある。

この中斷が個々の殘像現象作用によつて隠される訳である。(それは殘像作用にならないといふ説もあるが、茲に便宜に従つて置く)

つまり活動寫眞とトリックとは切離すべからざるものなりといふことも切離しても切れぬ深い関係のあることが分る。

この撮影中斷の方法は、中斷中に加ふる変化の性質によつて三つに別けることが出来る。

(A) 突然の出現或は消滅。撮影中斷中に人物又は自動車その他を撮影面から取り除き、或は差加へることによつて生ずるトリックである。地獄の鬼が煙と共に消え失せたり、天使が突然現れたりするのはそれである。

多くは後に述べる二重露出法中間フィルムを併用する。場在化物屋敷の寫眞で、ドアが突然陸に変つたりするのはこの方法が直接である。

後者が表情の変り目にこの方法を利用して化粧を仕直すものはよい事だと思ふ。例へば動き廻の者をみて、後に顔色の擬装して行く所などを寫すにはそれがよいと思ふ。

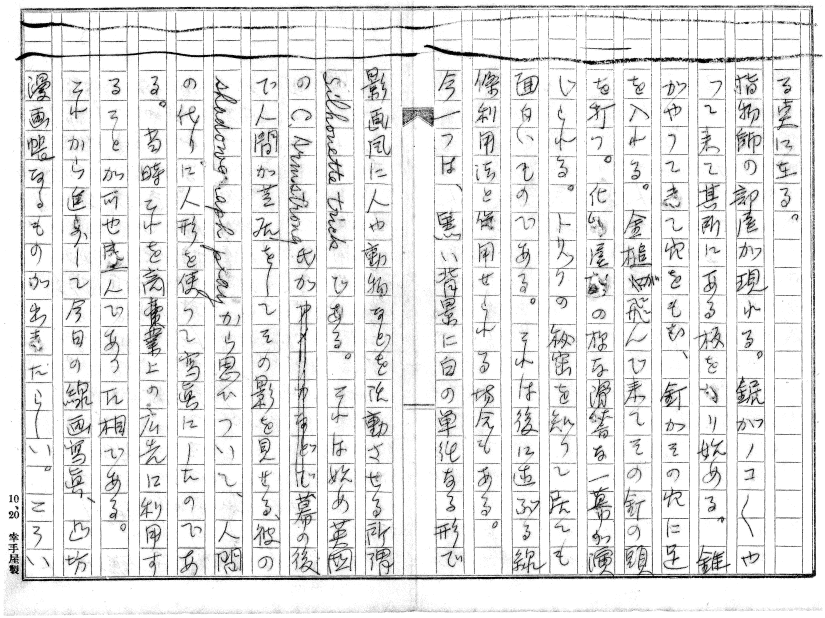
(B) 代用物の置換え。英語の所謂 dummies, stop and substitution action, substitution

思ったのは、帽子と服計り、藻抜けの空だったりするのはよく滑稽物にある。劇に於ては主として危険な人力以上のはなれ業を演ずる際に用ゐられる。一例を上ぐれば、幾十丈の断崖を轉落する所などは実際の人と人形との巧みなる置換えに外ならぬ。この方法は最も應用の範囲が広いもので「あるが」、こゝに一々枚挙するの遑はない。

この(A)(B)共に hold it, freeze, stop 我國の所謂「極って下さい」の厳重に守られる事が最も必要である。

(C)一画面又は数画面毎に中断を行ひ主として被撮影物の位置、形状を変ずる方法。所謂 one turn one picture principle である。この方法の主たる目的及効果は無生物が自から活動するが如き［幼］幻覚を與へる点に在る。

指物師の部屋が現れる。鋸がノコ〳〵やって来て其所にある板を切り始める。錐がやって来て穴をもむ、釘がその穴に足を入れる。金槌［に］［が］飛んで来てその釘の頭を打つ。化物屋敷の様な滑稽な一幕が演じられる。トリックの秘密を知って居ても面白いものである。これは後に述ぶる線條利用法と併用せられる場合もある。



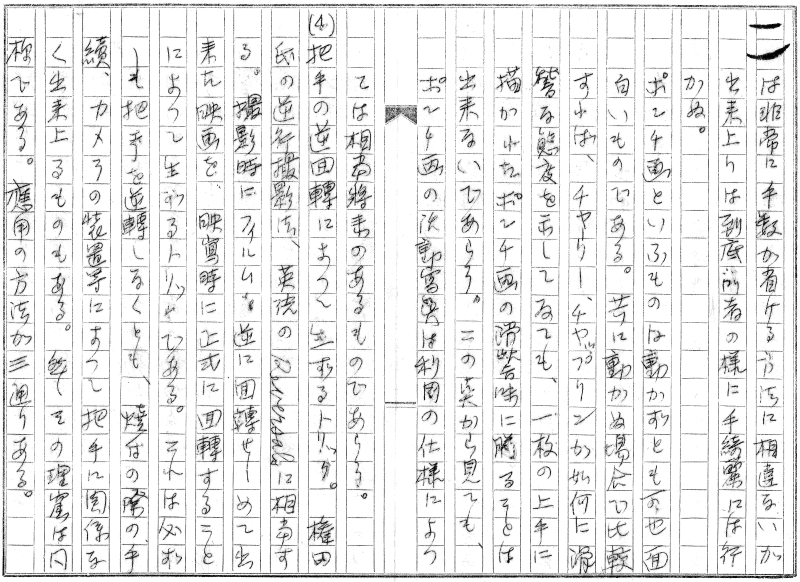
今一つは、黒い背景に白の単純なる形で影画風に人や動物などを活動させる所謂 silhouette trick である。これは始め英國の C.Armstrong 氏が［アメリカなどで］幕の後で人間が芝居をしてその影を見せる、彼の shadowgraph play から思ひついて、人間の代りに人形を使って寫眞にしたのである。当時これを商［賣］業上の広告に利用することが可也盛んであった相である。これから進歩して今日の線画寫眞、凸坊漫画帳なるものが出来たらしい。こういふものが出来た現在と、活動寫眞［が］発明［せられた時代］［の当初］とを比較するのは面白い。一八三三年 Hornez 氏が手で描いた wheel of life（Zoetrope）が活動寫眞の元祖らしいが、あの時代にあっては、［動く］画から眞個の動く寫眞に進むのが進歩であった。そして、一八七七年 Muybridge 氏が馬の走る所を活動寫眞にしたのが大きな手柄であった。ところがその後観衆が動く自然にあき出すと、今度は逆に動く寫眞から、動く画に行くのが進歩になって来た。線画寫眞の発達は、「歴史は繰り返す」といふ様なことを感じさせる。

所謂凸坊漫画帳にも製作法によって二派がある。一つは背景その他全画面［を］一々書いて、活動すべきケ

所丈け少しづゝ形を描き変へて行く方法で、他は、背景は終始不変の一枚の画を用ゐ、人や動物の画を切抜いて其上に置き、動くべき個所丈けに変化を加へて行く方法である。後者は非常に手数が省ける方法に相違ないが出来上りは到底前者の様に手綺麗には行かぬ。ポンチ画といふものは動かずとも可也面白いものである。共に動かぬ場合で比較すれば、チャーリー、チャップリンが如何に滑稽な態度を示してゐても、一枚の上手に描かれたポンチ画の滑稽味に勝ることは出来ないであらう。この点から見ても、ポンチ画の活動寫眞は利用の仕様によっては相当將来のあるものであらう。

(4) 把手の逆回轉によって生ずるトリック。権田氏の逆行撮影法、英語の Reversal に相当する。撮影時にフィルムを逆に回轉せしめて出来た映画を、映寫時に正式に回轉することによって生ずるトリックである。これは必ずしも把手を逆轉しなくとも、焼付の際の手續、カメラの装置等によって把手に関係なく出来上るものもある。然しその理窟は同様である。應用の方法が三通りある。

(A) 下降を昇騰とするもの、又はその［返］一反［対。滑稽寫眞や、日本の忍術寫眞によくある非常に高い所へ飛び上るはなれ業は、飛びおりる所を逆に寫したもの



である。その反対の例は、日本の怪談物なぞで見る。広がってゐる煙が一点に吸ひ込まれる様に消える寫眞も同様にこの方法によったものである。鞠が坂道を自りで■上って行って開いた窓へ飛び込むといふ様なのもこのトリックである。これなどは前述の中断によるものと間違い易い。

(B)前進を逆行とするもの、又はその反対。■巧妙な一例がある。汽車の線路に一人の女が縛ったまゝ、横へられた。汽車は驀馳にやって来る。一人の男が走って来て將に汽車の救助網に触れんとしてゐる女を助ける。若しこれを本当にやれば極めて危い仕事である。この寫眞のマネージャーが採った方法はかうである。先づ男が縛られた女を抱いて、急ぎ足にあとじさりをしながら線路の上に遣って来て、大急ぎで女を線路に横へて、矢張りあとじさりをして去る。その女の横はった鼻の先には黒煙を吐いて汽鑵車が一寸と隔てずに止［ま］ってゐる。合図と共にその汽車は全速で背進を始める。■これを逆回轉法で撮影したものであった。正式の活動をこの方法で撮影すれば滑稽寫眞が出来、間違った活動を撮影すれば正式のものが出来る。これがトリックの妙所である。

(C)破壊を建設とする。石膏細工が一分間で出来上ったり、ズタ〳〵に切られた果実が元々通りの形になったりするのは、出来上った石膏細工を打ちこわすのや、果実の皮をむき実をズタ〳〵に切るのを逆に撮影したものである。これは多く〔は〕中断撮影法と併用する必要がある。

(二)撮影機のレンズに関するもの。

これはレンズの位置、方向の変化、レンズののある運動、及び特殊レンズの利用によって生ずるトリックである。重なるもの六種を以下に列記する。

(1)■俯瞰して撮影するもの、床を背景として空中から撮影するトリックである。その床に色々の画布を敷いたり装置を施したりしてそれを空中、水中、建物等に見せる。つまり横のものを縦に見せる仕掛けである。実際縦では非常に困難であったり又は不可能なことが、横にすれば雑作なく出来るといふ所から思ひつかれたものである。

(A)空中。魔術寫眞に空中の舞踊といった様なものがあるのはこれである。〔これは実は〕□の上に雲だとか月や星だとかを描いた画布を〔引〕敷いて、その上に裸体の女などが横はって色々に手足を動かすのである。

(B)水中。水中を背景とする活動寫眞の撮影法に四種ある。

さうをしなかと線路の上に置って居て、大急ぎで女を線路に横へて、矢張りあとにさうをしてゐる。その女の横ぱうに集の見は煙を吐いて汽罐車が一寸と隠てゐに止まってゐる。全図と共にその流動は全速で背景を流める。これを逆回転法で撮影したものであつた。正常の活動をこの方法で撮影すれば滑稽写真が出来、隠喩つた活動を撮影すれば正式のものが出来る。それが上りの妙所である。

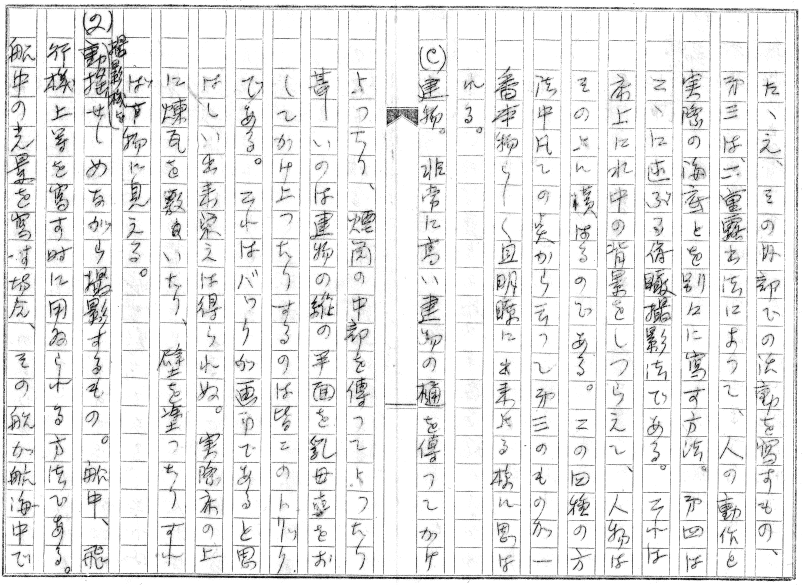
(C) 破壊を建設とする。花弁細工が一分間で出来上つたり、ズタズタに切られた果実が次々通りの形になつたりするのは、出来上つた不貞細工を折りこわすのや、果実の皮をむき実をズタズタに切るのを逆に撮影したものである。それは多くは中既撮影法と併用する必要がある。

(二) 撮影機のレンズに関するもの。それはレンズの位置、方向の変化、レンズのある種類、及び特殊レンズの利用によって生ずる上がりである。重なるもの古種を以下に列記する。

1) 俗賤にして撮影するもの、床を背景として空中から撮影するトリックである。その床に色々の画布を敷いたり装置を被せたりして それを空中、水中、建物等に見せる。つまり横のものを縦に見せる仕掛けである。実際縦では非常に困難であつたりまたは不可能なることが、横にすれば雑作なく出来るという所から思ひついたものである。

(A) 空中。意外雪景に空中の舞踊といつた様なものがあるのはそれである。心の上に雪だとか月や星だとかを描いた画布を敷いて、その上に裸体の女をかが横ばうて色々に手足を動かすのである。

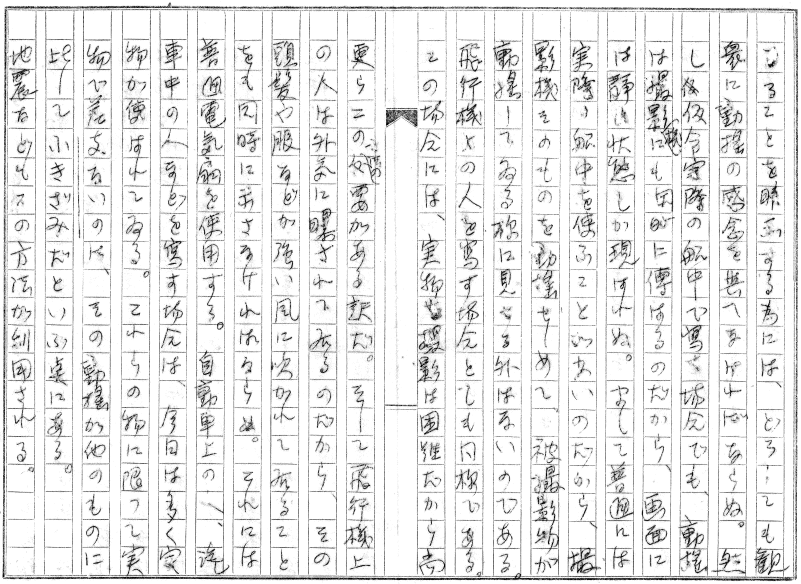
(B) 水中。水中を背景とする活動写真の撮影法に面倒がある。第一は実際の海底に於て強烈な電光を利用して潜れるを写す方法 第二は大きなタンクを拵えてそれにれを



第一は実際の海底に於て強烈な電光を利用して潜水者を寫す方法第二は大きなタンクを拵えてこれに水をた、え、その内部での活動を寫すもの、第三は、二重露出法によって、人の動作と実際の海底を別々に寫す方法。第四はこ、に述ぶる俯瞰撮影法である。これは床上に水中の背景をしつらえて、人物はその上に横はるのである。この四種の方法中凡ての点から云って第三のものが一番本物らしく且明瞭に出来上る様に思はれる。

(C)建物。非常に高い建物の樋を傳ってかけ上ったり、煙筒の中部を傳って上ったり甚しいのは建物の縦の平面を乳母車をおしてかけ上ったりするのは皆このトリックである。これはバックが画布であると思はしい出来栄えは得られぬ。実際床の上に煉瓦を敷■いたり、壁を塗ったりすれば本物に見える。

(2)撮影機を動揺せしめながら撮影するもの。船中、飛行機上等を寫す時に用ゐられる方法である。船中の光景を寫す場合、その船が航海中であることを暗示する為には、どうしても観衆に動揺の感念を與へなければならぬ。然し■仮令実際の船中で寫す場合でも、動揺は撮影機にも同時に傳はるのだから、画面には静止状態しか現は

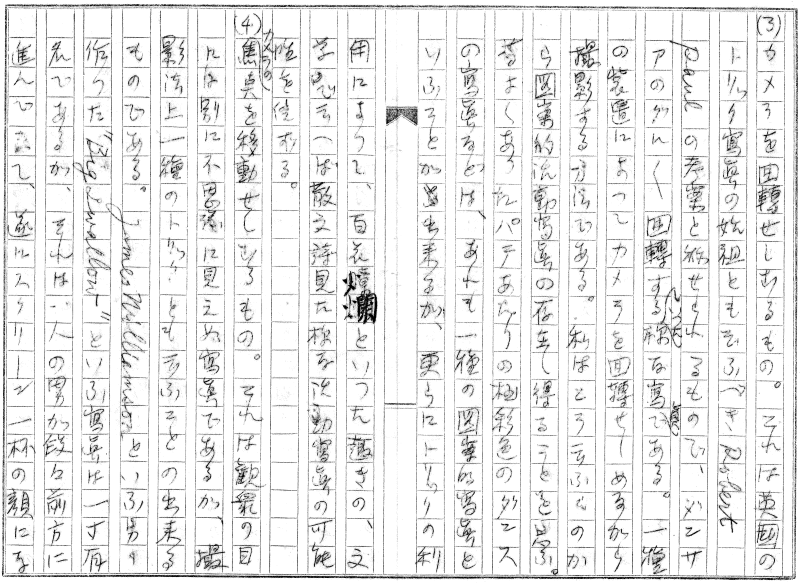


10・20　赤手星製

れぬ。まして普通には実際の船中を使ふことが少いのだから、撮影機そのものを動揺せしめて、被撮影物が動揺してゐる様に見せる外はないのである。飛行機上の人を寫す場合とても同様である。この場合には、実物■撮影は困難だから尚更らこの一方法の一必要がある訳だ。そして飛行機上の人は外気に曝されて居るのだから、その頭髪や服などが強い風に吹かれて居ることをも同時に示さなければならぬ。これには普通電気扇を使用する。自動車上の人、汽車中の人などを寫す場合は、今日は多く実物が使はれてゐる。これらの物に限って実物で差支ないのに、その動揺が他のものに比して小さざみだといふ点にある。

地震などもこの方法が利用される。

(3)カメラを回轉せしむるもの。これは英國のトリック寫眞の始祖とも云ふべきRobert Paulの考案と称せられるもので、ダンサアのグル〳〵回轉する一といった一様な寫一眞一である。一種の装置によってカメラを回轉せしめながら撮影する方法である。私はこう云ふものから図案的活動寫眞の存在し得ることを思ふ。昔よくあったパテあたりの極彩色のダンスの寫眞などは、あれも一種の図案的寫眞といふことが■出来るが、更らにトリックの利



用によって、百花燎爛といった趣きの、文学で云へば散文詩見た様な活動寫眞の可能性を信ずる。

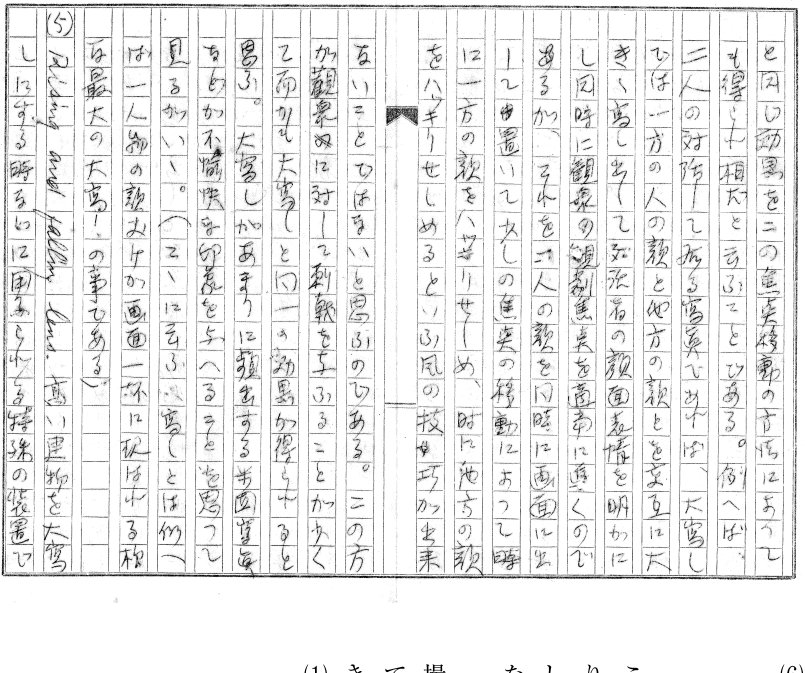
(4) 一カメラの一 焦点を移動せしむるもの。これは観衆の目には別に不思議に見えぬ寫眞であるが、撮影法上一種のトリックとも云ふことの出来るものである。James Williamson といふ男の作った "Big Swallow" といふ寫眞は一寸有名であるが、それは一人の男が段々前方に進んで来て、遂にスクリーン一杯の顔になり、更らに前進して、目と鼻と口計りになり、鼻と口計りになり、遂に口計りになって、その口をアングンと開くと、画面は口腔の内部をきかせて眞暗になる。そこ■へその男を寫してゐた寫眞師の小さい身体が寫眞機と共に轉り込むといった様な寫眞で私は子供の時分見たことがある。これは見た目には何んでもない様であるが、撮影技師は大変な苦心をする寫眞である。ある距離までは焦点を変えなくても済むが、非常に近寄って来ると、それからは刻々に焦点を変えて行かねば画面がハッキリしないのだから、その困難は大抵ではない。技師の手腕といふ様な点からこの寫眞は有名になったこと、思はれる。私はこれから次の様なことを聯想する。

心理学者ミュンスターベルヒ (Photoplay A psychological

10、20　柴手屋製

study）が云って■居る様に大寫しといふものは、藝術としての活動寫眞の偉大なる特徴であるが、その大寫しと同じ効果をこの焦点移動の方法によっても得られ相だと云ふことである。例へば、二人の対話して居る寫眞であれば、大寫しでは一方の人の顔と他方の顔とを交互に大きく寫し出して対話者の顔面表情を明かにし同時に観衆の観劇焦点を適当に導くのであるが、これを二人の顔を同時に画面に出して■置いて少しの焦点の移動によって時に一方の顔をハッキリせしめ、時に他方の顔をハッキリせしめるといふ風の技■巧が出来ないことではないと思ふのである。この方が観衆［の］に対して刺戟を与ふることが少くて而かも大寫しと同一の効果が得られると思ふ。大寫しがあまりに頻出する米國寫眞などが不愉快な印象を与へることを思って見るがい、。（こゝに云ふ大寫しとは例へば一人物の顔丈けが画面一杯に現はれる様な最大の大寫しの事である）

(5) Rising and falling lens 高い建物を大寫しにする時などに用ふられる特殊の装置で上下に自由にレンズの方向［の］［を］変ずることが出来る様になってゐる。これはトリックとしては天使の空中を飛んでゐる場面などに用ゐられる



⑹不思議レンズ。普通レンズの外にプリズム様のレンズを装置して、或は長細く、或は横平たく色々の異様な寫眞を作ることが出来る。例へばヒヨロ長い夫と、平べったい妻との滑稽寫眞などを作るに適当なトリックである。この外、検微鏡寫眞は極微生物の研究方法として有効であり、ある場合には望遠鏡的の隔大寫眞もとることが出来るし、猶、將門眼鏡の様なものでも利用の余地がないこともなからうと思はれる。

㈢フィルムに関するもの。

撮影中、焼付けの際、或はその後［の］にフィルムに関して特殊の手段を■講じて作られるトリックである。記すべきものが三つある。

⑴二重露出或は二重焼付。

これはフィルムに二つ［或は夫れ以上の］の異った場面を重ねて寫して種々のトリックを拵へる方法である。同様の効果を、撮影後の複寫焼付けの場合（或は複寫印刷）に別々のフィルムに寫した異った二つ［或はそれ以上］の場面を重ねて焼付け或は印刷することによっても得られる。前者は英語 double exposure に、後者は double printing に相当する。権田氏はこれらを重複結合法と称して居られる。これは複雑の度によって大体四つ

上下に自由にいろ〻の方向に変形することが出来る様になってゐる。それはトリックとしては天使の雲中を飛んでゐる場面などに用ゐられる。

(6)不思議しゝ。兼題として之の外にプラスム様のものを製造して、或は長細く、或は横幅なく色々の変様な寫眞を作ることも出来る。例へばヒヨロ長い夫と、平べつたい妻との滑稽寫眞などを作るは適当なトリックである。

この外、極微鏡寫眞は科学生物の研究方法として有効であり、ある場合には望遠鏡的の隔大寫眞もとることが出来るし、猫、格闘顕微鏡の極るものでも利用の余地があることなからうと思はれる。

(三)フィルムに関するもの。

撮影中、焼付中の陰、或はその後にフィルムに関して特殊の手段を講じて作られるものである。此すべきものが三つある。

(1)二重露出或は二重焼付。

10、20 幸手屋製

に分つことが出来る。

(A)単純なる二重露出。天使だとか、幻だとかが画面中に朦朧として現はれ、実在のものとはならずしてそのまゝ消えて了ふ様な寫眞はこれである。これは一度現実の場面を撮影した後で、暗室中で天使或は幻にの□光線を與へて、同一フィルムの適当な個所へ撮影するのである。これらの非現実物は、現実の画面に対して非常に大きも又小さくも寫すことが出来るのでこのトリック の面［白］味が加はる訳だ。このトリック［製作］には守るべき三ケ条がある。そしてこれは後の(B)(C)(D)にも共通の要件である。

(イ)非現実物を寫す場所は、現実物中でもなるべ■くその物の色（例へば明）と反対の色（例へば［黒］暗）に近き所を択ぶこと。

(ロ)非現実物と、現実の人物との應対の調子を合は■せる為に、二■重露出或は印刷のタイムをよく吟味すること。

(ハ)非現実物が現実物に対して絶えず微動する様な不体裁を避ける為、特に撮影器の把手回轉による微動［を］がない様に注意すること。

(B)Diaphragm。我國でシボリと称せられるもの、一種で

それはフィルムに二つの異った場面を重ねて寫すこと（或は異った場面を重ねて寫すこと）のトリックを使へる方法である。

(イ)複の動作を、撮影後の複寫煙消しの場合（或は複寫印刷）は別々のフィルムに寫した異った二つの場面を重ねて煙消し或は印刷することによりても得られる。前者は英語 double exposure は、後者は double printing に相當する。羅田氏はそれらも重複露光と称して居られる。それは複雑のなにようて大体四つに分つことが出来る。

(A)単純なる二重露出。夫便所とか、幻灯とかの画面中に幽霊として現はれ、実在のものとはならずしてものまく消えてゆく様な寫真はそれである。それは一定の現実の場面を撮影した後で、暗室中で夫便所はのような光線を当てて、同一フィルムの違ふ個所（撮影するのである。さならの雰囲気物は、現実の画面に対して非常に大きもみなかさくも寫すことが出来るのはこのトリックの面白さが加はる訳だ。こ

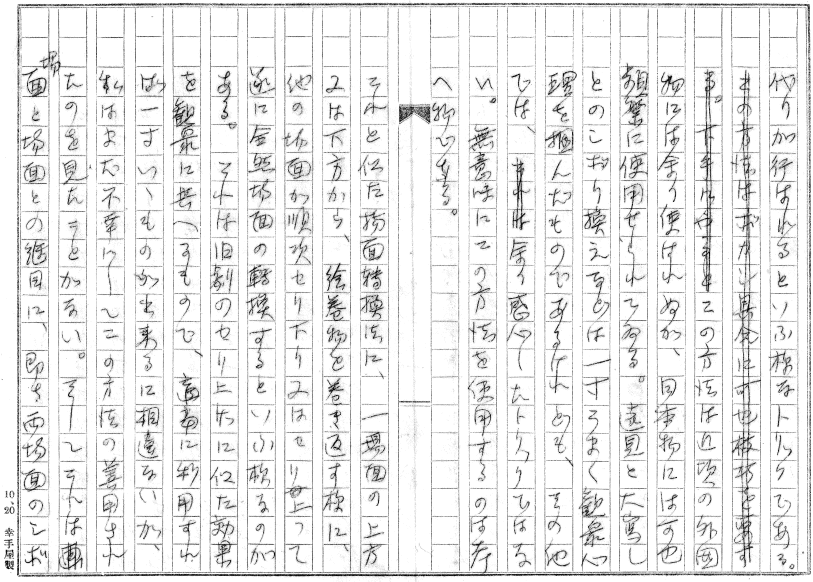
のトリックは第一（第三）章にあるべき三ヶ所がある。そしてそれは後の(B)(C)(D)にも共通の要件である。

(イ)雰囲気物を寫す場合は、現実物中にもあるべきもの物の色（例へば暗）と反対の色（例へば黒）に近き所を撰ぶこと。

(ロ)雰囲気物と、現実の人物との濃淡の調子を合せる為に、二重露出或は印刷のタイムをよく吟味すること。

(ハ)雰囲気物が現実物に対して絶えず微動する様な不便越を避ける為、特に撮影器の把手頭輪による微動をなるべく少に注意すること。

(B) Magic Lantern 幻灯でこれをやると効せられるもの、一種である。つまり食ひ違いの二重露出である。例へば一場面の上に他の全然異った場面が朦朧と現はれ、それが、先の場面がうすれ行くに従って段々はっきりして行って、遂に全然当場面の入



ある。つまり食ひ違ひの二重露出である。例へば一場面の上に他の全然異った場□が朦朧と現はれ、それが、先の場面がうすれ行くに従って段々ハッキリして行って、遂に全然■場面の入代りが行はれるといふ様なトリックである。［この方法はボカシ具合に可也技巧を要する。下手にやると］この方法は近頃の外國物には余り使われぬが、日本物には可也頻繁に使用せられてゐる。遠見と大寫しとのシボリ換えなどは一寸うまく観衆心理を摑んだものであるけれども、その他では、［これは］余り感心したトリックではない。無意味にこの方法を使用するのは考へ物である。

これと似た場面轉換法に、一場面の上方又は下方から、絵巻物を巻き返す様に、他の場面が順次セリ下り又はセリ■上って遂に全然場面の轉換するといふ様なのがある。これは旧劇のセリ上げに似た効果を観衆に與へるもので、適当に利用すれば一寸い、ものが出来るに相違ないが、私はまだ不幸にしてこの方法の善用されたのを見たことがない。そしてこれは［画］二場一面と場面との継目に、即ち両場面のシボリ具合に余程注意しないと縮尻る。日本物には頻々としてこの縮尻を発見する。

10・20 幸手屋製

(C)Dissolving views (A)の幻の様に現はれた人物その他が遂に現実の場面中のものとなって、それからは普通の活動を續けて行く様な寫眞である。或はその反対に現実の物が幻となって消えるのもこれである。これは(A)の単純二重露出を行った後すぐ中断方法によって二重から普通寫眞に代るのである。一(或はその反対)一二重露出法中最も屢々使用せられるトリックである。これには(A)の場合に上げた注意と、中断法の時に上げた注意即ち「極って下さい」とが共に厳重に守られなければい、ものが出来ない。

(D)一人二役。double role である。大分以前のことであるが（明治四十年代）名古屋のある寫眞師が「ハテナ寫眞」といふものを発明して特許を受けたことがある。

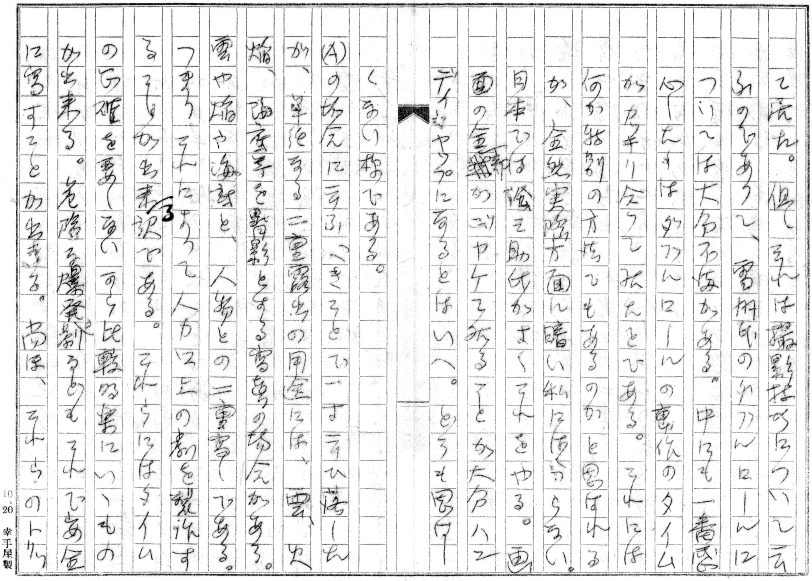
■それ　は一　■一枚の寫眞に同一の人物を何人でも寫すことの出来る方法で、例へば自　一分一　と自分とが局を囲んで烏鷺を闘はして居る所などは難なく出来た。私も二三度寫して貰ったことがある。東京にも先年からこの方法が傳って、これを看板にしてゐる寫眞屋を見受けることがある。一体活動寫眞の一人二役法の発明が何時頃のことかはハッキリ知らないが、日本にもこの位の発明能力のあることは右の挿話によっても分

10/26 幸手尾製

ることだ。方法はやはりシボリの手加減である。これは(B)［で］の後段に述べた場面シボリ［代］［換］えと同様の方法であるが、トリックとしての特徴はその方法よりも寧ろ一人二役といふ点にあるのだから態と別に申述べる次第である。

ダブルロールは巧く行くと可也ズバラシイ効果を収めるものである。これは極く最近の知識であるが、米國で雪州氏が主役となって寫した「桜の光」とかいふ寫眞中にあるダブルロールは極めて巧妙に出来て居た。但しそれは撮影技巧について云ふのであって、雪州氏のダブルロールについては大分不満がある。中にも一番関心したのはダブルロールの動作のタイムがカッキリ合って居た事である。これには何か特別の方法でもあるのかと思はれるが、全然実際方面に暗い私には分らない。日本では松之助氏がよくこれをやる。画面の全［然］［部］がボヤケて居ることが大分ハンディキャップになるとはいへ。どうも思はしくない様である。

(A)の場合に云ふべきことで一寸云ひ落したが、単純なる二重露出の用途には、雲、火焔、海底等を背影とする寫眞の場合がある。雲や焔や海底と、人物との二重寫しである。つまりこれによって人力以上の劇を製作すること

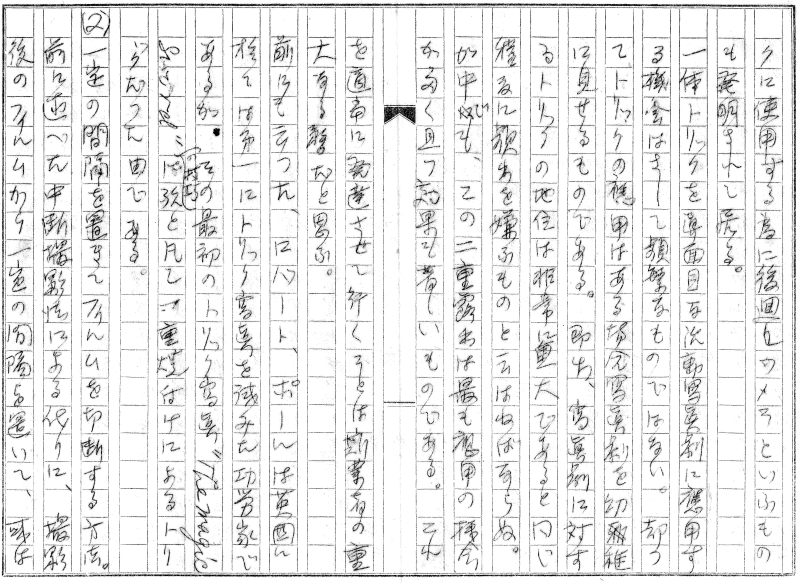


が出来（る）訳である。これらにはタイムの正確を要しないから比較的楽にい、ものが出来る。危険な爆発（の）劇などもこれで安全に寫すことが出来る。尚ほ、これらのトリックに使用する為に後廻しカメラといふものも発明されて居る。

一体トリックを眞面目な活動寫眞劇に應用する機会はさして頻繁なものではない。却ってトリックの應用はある場合寫眞劇を幼■稚に見せるものである。即ち、寫眞劇に対するトリックの地位は非常に重大であると同じ程度に頻出を嫌ふものと云はねばならぬ。が中■でも、この二重露出は最も應用の機会が多く且つ効果も著しいものである。これを適當に発達させて行くことは斯業者の重大なる務だと思ふ。

前にも云った、ロバート、ポールは英國に於ては第一にトリック寫眞を試みた功労家であるが、その最初のトリック寫眞“The magic sword”（の）技巧（）は殆と凡て二重焼付けによるトリックだった由である。

(2) 一定の間隔を置きてフィルムを切断する方法。前に述べた中断撮影法による代りに、撮影後のフィルムから一定の間隔を置いて、或は一つ置き、或は二つ置きといふ様に画面を切り取って残った分を継ぎ合せ、それから複製



10・20 幸手屋製

するといった方法である。この方法による時は速度を正確に均等ならしめる利益があるけれども、複製を沢山作らない場合には時間と材料の損失である。

(3) 雨、電、これは極めて幼稚な方法で、却ってその幼稚さがグロテスク美を齎す位の物である。雨といふのは出来上ったフィルム面に、先の尖ったもので無暗に傷をつけてそれを暴雨に見せる仕掛けである。暴雨と云へば古くなったフィルムには多少とも皆雨が降ってゐるものだ。田舎の子供が地方回りの古い寫眞を見せられて、「ヤー雨が降ってる」といった■のは一口噺でもなんでもない実話である。劇の保存といふこと［を］■活動寫眞の重要な特徴をとする為には、何とかも少し耐久力のあるフィルムが発明されねばならぬ。フィルムの耐火方面に於てはCellitのフィルムなどが出来てゐる由だから、この方面にも何とか改良［法］がないものか。

電即ち稲光の方は瞬間的に現はせば足る物だから［フィルム］幾十［面］［枚］毎に一面位差加へればよい。これは無地のフィルムに赤い色を塗ったのや［雨］［前］と同様の方法で久字形の傷をつけるのや色々行はれた。勿論感心したものではない。日本在来の影［画］［■寫眞］幻燈にある一種の悽味に似た感じで、あるショック

一つ置き、或は二つ置きとゝふ様に画面を切り取つて行うれ方を往々会せ、それから複製するといつた方法である。この方法による時は原画を正確に写さなくてもよいかあるけれども、複製を作り作るない場合には時々と研究の度失びある。

(3) 雨、雪、それは極めて幻想的な方法で、切つてその効能さかが上テスク美を商す位の効ひある。雨といふのは出来上つたフイルム面に、光の出つたものゞ無暗に傷をつけて

10・20 幸手屋製

ルを墨雨に見せる化粧けゞある。墨雨と云へば式くなつたフイルムには多大とも昔雨が降つてゐるもの。田舎の子供が地方男りの式い宮笑を見せられて、一ヤー雨が降つてゐるといつたものは一に動ひそんひでもない実弦ひゐる。劇の像者といふことは節雪奥の意味を特徴とさるゝには、何のとかも必ず耐久力のあるフイルムが発明されねばならぬ。フイルムの耐久方面に於ては中村のフイルムいなどが出来てゐる由だから、この方面

10・20 幸手屋製

にも何とか改良が望いものか。

電雨や稲光の方は瞬間的に現はせば足る物だから第十番毎に一面位差が一れはよい。それは無地のフイルムに赤い色を塗つたものや、雨と同様の方法で広き形の傷をつけるのや、色に行はれた。白海岸しんもものゞはない。

日本在来の影絵幕幻燈に於る一種の情緒に似た感じで、ある効力を効果に於る様な点がないでもないが、今日の写真劇の自然主義からは遠いものである。

それらの下方は今日のは少しも施す必要がなくなつてゐる。それは強効なる電気の利用法が発達したからだ。大きな影法師の映る不手際を除けば、室内の場面はどうしても室光にある様影の方が自然に行く。外面効ひは電光の[illegible]が[illegible]用法[illegible]

[illegible]の様なものは、日本効はまだ向きにはよつてゐる様である。ひどいのは殿中屋敷や場面に於て、別風が役者の衣装袴やわき具を吹き揺つて居るのなどもある。此の問

10・20 幸手屋製

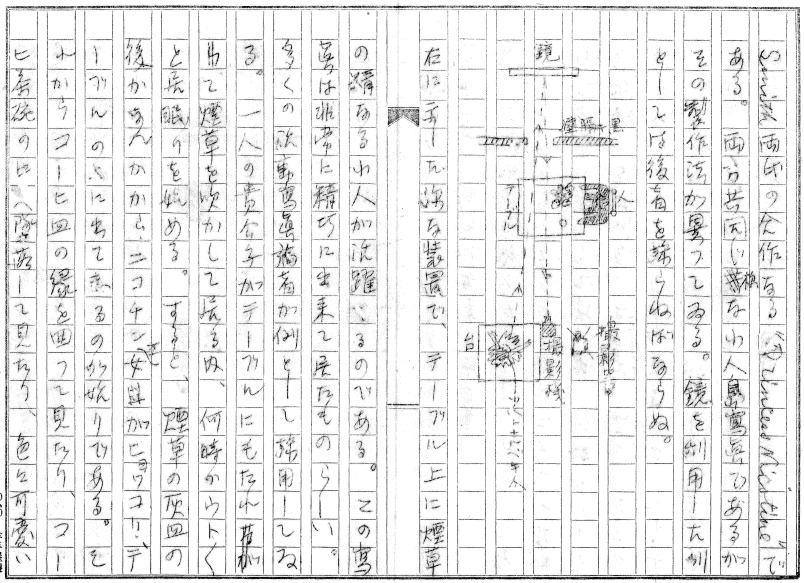
を観衆に與へる様な点がないでもないが、今日の寫眞劇の自然主義からは遠いものである。

これらのトリックは今日では少しも施す必要がなくなってゐる。それは強烈なる電光の利用法が発達したからだ。大きな影坊師の映る不手際を除けば、室内の場面はどうしても電光による撮影の方が自然に行く。外國物では電光［によって居ないものは今日殆んどない様であるが、］の利用が可也盛であるが、一日本物はまだ日光によって居る様である。ひどいのは殿中奥深［く］き場面に於て、烈風が役者の衣［装］裳や小道具を吹き捲って居るのなどもある。此の間出来た「西廂記」には輸出向丈けあって流石に電［光が］光が到る処利用してあった様だ。このことも、一日本の一活影の他の凡ての欠点と同じく、製作費の点から来てゐるのだから、営業的製作者には或程度までハンディキャップを與へて論じなければなるまい。

㈣撮影機以外の装置に関するもの。

これは種々雑多の方法がある訳だが、従来行はれたもの、内重なのを列べて見る。

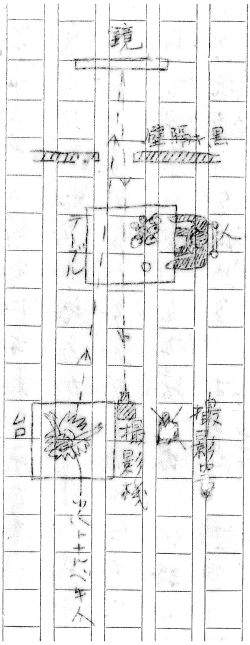
⑴鏡の利用。鏡そのものが一種魔物の様な性質を持って居るのだから、これによるトリックは色々ある筈だ。手品



10.20 來手屋製

には鏡を用ゐた色々のトリックがあるが、あれは凡て活動寫眞にも應用出来る。が、それらの一々については省いて、茲には鏡を利用した魔術寫眞の代表的な一つについて述べる。

昔トリック全盛の時［代］に出来た魔術寫眞の粋とも称すべきものがある。それは一つは Gaumont 会社作の "The little milliner's dream" で、一つはアメリカの Stuart Blackton, Albert Smith 両氏の合作なる "Princess Nicotine" である。両方共同じ［共］様な小人島寫眞であるが、その製作法が異ってゐる。鏡を利用した例としては後者を採らねばならぬ。

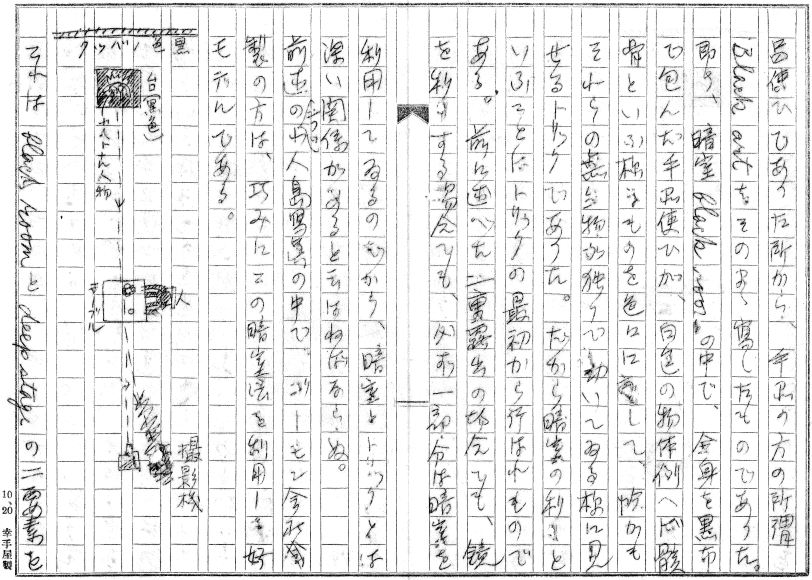


右に示した様な装置で、テーブル上に煙草の精なる小人が活躍するのである。この寫眞は非常に精巧に出来て居たものらしい。多くの活動寫眞論者が例として採用して

10・20 牧手尾製

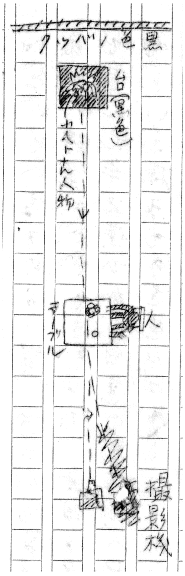
ゐる。一人の貴公子がテーブルにもたれ［ながら］て煙草を吹かして居る内、何時かウト〳〵と居眠りを始める。すると、煙草の灰皿の後かなんかからニコチン［王］女［王］がヒョッコリ、テーブルの上に出て来るのが始りである。それからコーヒ皿の縁を回って見たり、コーヒ茶碗の中へ墜落して見たり、色々可愛い藝當をやる。その中で小人の大寫しがあるが、これは普通にニコチン王女なる役者を寫すので、その場面に出て来る小道具は凡て張りこかなん［な］かの作物である。コーヒ茶碗でも、花生けでも、その花生けの花でも、凡て人間の幾倍といふ様な大きさを持ってゐる。王女が■［等身大の］巻煙草をおもちゃにする所などは興味がある。こういふ場面の直ぐ後に又例の鏡利用のトリック場面が出るので、観衆は巧みに欺かれて了ひ、い、気持ちになる。私はこの様な寫眞を見て居ないことを不幸に思ふ。

鏡の利用と云へば、トリックではないが、普通の人情寫眞などに巧みに應用せられてゐるのを見ることがある。例へば［直接その人を出さず］姿見にかすかに寫る［その］人影を以て、場面の悽味を増すの等はこれである。作者、撮影監督等は鏡といふものをよく研究してゐる必要がある。



(2)暗室の利用。フランスに於けるトリック寫眞の始祖Meliesが最初の試みは、同人が手品使ひであった所から、手品の方の所謂Black actをそのまゝ、寫したものであった。即ち、暗室Black roomの中で、全身を黒布で包んだ手品使ひが、白色の物体例へば骸骨といふ様なものを色々に動して、恰かもそれらの無生物が独りで動いてゐる様に見せるトリックであった。だから暗室の利用といふことはトリックの最初から行はれものである。前に述べた二重露出の場合でも、鏡を利用する場合でも、必ず一部分は暗室を利用してゐるのだから、暗室トリックとは深い関係があると云はねばならぬ。

前述の「二つの」小人島寫眞の中で、ゴーモン会社［会］製の方は、巧みにこの暗室法を利用した好モデルである。



これはblack roomとdeep stageの二要素を巧みに應「用」したもので、例へば月が何等の背景を持たぬ為、梢などにかゝった時、僅かに皿位の多きさにしか見えな

いといふ様な背景なき場合の距離の錯覚を利用したものである。

一体小人島寫眞の製法には、以上述べて来た処によって分る様に、二重露出法と■鏡及暗室の利用との三途がある訳である。ホーソンの「壜中の鬼」なども、このいづれかによって寫眞になるであらう。

(3)代用品の使用。これは最も應用の余地が広い。広い意味で云へば寫眞劇に使ふ大道具小道具も多くは代用品の使用なのである。更らに、人物だって、ナポレオンならナポレオン、シーザーならシーザーを役者によって代［用］［理］せしむるに過ぎない訳だ。こういふ風に云ひ出したら■限りがないから茲では著しいもの二三を上げるに止めて置く。

その一つは汽車の衝突に使ふトリックである。衝突の場面丈け遠見にして、オモチャの汽車を用ゐ。その直ぐ前後には本物の汽車を使ふ。衝突の後の場面で汽車の毀れた残骸を見せられるので見物は一寸欺かれるのである。

その二つは、海戦に於ける［運］［軍］艦や商船の沈没である。これも沈没の場面丈けオモチャの船を水溜りに浮べて欺く。勿論背景其他オモチャの船に比較しておかしくない様に装置するのである。前の汽車の場合はさし

車を用ゐ。その直ぐ前後には本物の汽車を使ふ。衝突の後の場面で汽車の壊れた残骸を見せられるさい見物は一寸驚かれるのである。
その三つは、海戦に於ける軍艦や商船の沈没である。それも沈没の場面及びボモチヤの船を水溜りに浮べて驚く。勿論背景其他ボモチヤの船に比較してあまりしくない海に写真するのである。前の汽車の場合はさしてあまりしくもないが、船の場合では、どうしても免れ難い一つの欠点がある。それは水溜りの波が□海の波の代理を務めるには不適当だといふことである。沈没した船のまわりから、恰度[お池に]石を放げた時の様[な]ゆるやかな波紋が生じては、どんな馬鹿な見物だって欺かれはしない。
10・20 牟手屋製

ておかしくもないが、船の場合では、どうしても免れ難い一つの欠点がある。それは水溜りの波が□海の波の代理を務めるに不適當だといふことである。沈没した船のまわりから、恰度[お池に]石を放げた時の様[な]ゆるやかな波紋が生じては、どんな馬鹿な見物だって欺かれはしない。

その三つは、これは純粋のトリックとは云へぬが、陸戦だとか、ベースボールマッチだとか[を、]の本物を、芝居の間に挿入して見物を欺く方法である。後者は最近の、日本製としては一寸上出来の「熱球」といふ寫眞に應用されてゐるが、肝腎の勝負の時に一人の見物も居ないガランとした野原を見せたりしたのは不手際である。近頃、貴婦人社会と同じ様に、活動界に於ても、贅沢の為の贅沢といふ様な傾向がないでもない。金がかゝって居ると云ふことを以て藝術味の不足を補はうとする様な厭やな傾向がないでもない。

米國あたりでは、これらのトリックを應用する様なケチなことを排して、本物の汽車を衝[突]させたり、本物の汽船を沈没させたりすることがはやる。それから、此間の「ホームラン」なども「熱球」とは違って本物らしかった。こういふことが藝術であるとしたら、日本など

10・20　幸手屋製

では迚も藝術は出来ないことになる。

(4)線の利用。操りである。器物が自りで動くトリックなどに、中断法による外、操り人形式の方法で撮影して、後でその線などの現はれて居る所を消す方法がある。それである。大したものではない。

(5)溶解寫眞。Percy Smith といふ人が "The dissolution of the government" といふ寫眞を作ったことがある。私が子供の時分見たのに夫れではないかと思はれるのがあった。色々の人の顔が現はれて、それが段々イビツの形になって来て、或は眉と目とが合して太い線になったり、耳がくづれて喉の辺にたれて来たりして、遂に顔全体が溶けて了ふといふ様な寫眞であった。

これは寫眞の乾板の撮影面を溶解させ［る］ながら、フィルムにとるものと想像せられる。これも劇の見地からすれば大したものでない。

(6)月、その他。これはフィルムに関係なく、スクリーンの後方に、恰度［の］日本の芝居に於けると同様の仕掛けをして、又は別［の］に幻燈機械を用意することによって、実際の映画面には出て居ない月を、出て居る様に見せる方法である。二三度見たことがある。感心したものではない。

る。大したものではない。

(5) 湯鶴写真。"Fancy Portrait" という人が"The Adventure of the Yaveindent" という写真を作ったことがある。私がある時分見たのに夫れでは無いかと思はれるのがあった。色々の人の顔が現はれて、それが段々イビツの形になって来て、鼻は眉と目とが合して太い線になったり、耳がくっついて眼の上になって来たりして、最に顔全体が溶けて了ふといふ様な写真であった。

それは写真の乾板の撮影面を湯鶴させながら、ファンシーにとるものと想像せられる。それも割の見地からすれば大したものではない。

(6) 其、その他。それはファンシーに関係なく、スクリーンの後方に、映画の背景を立体的にたげると同様の仕掛けをして、又は別の幻燈機械を用意することにおいて、実際の映画面にはほんの少しの間を、出して戻る様に見せる方法である。二三度見たことがある。

10・20 幸手屋製

以上のものではない。

スクリーンに細工をすることは、こういふのもあった。前述スクリーンの背後から、ある光線を照して、画面の白い部分を一層光らせて写真を明瞭にする方法である。

以上を以て大体私の考へんとする所を終った。

あ(有)へて言ふときは、今日の活動写真は、トリックを駆使して居る。それは撮影技術上の自然主義から話してあるらしい。私はトリックはトリックとして進むべき方向があると思ふ。

再、時間一分間も言って長くなる様に、アッポーの短縮法とか、人体自身の活作法とかいろんな様な、美しく怖ろしいものを写真術で作組あれば、とっくるトリックの進歩の方向である。

トリックの進むべき道は、散文詩の方向である。

(おはり)

10・20 幸手屋製

スクリーンに細工をすることでは、こういふのもあった。
［即ち］［それは］スクリーンの背後からある光線を與へて、画面の白い部分を一層光らせて寫眞を明瞭にする方法である。
以上を以て大体私の云はんとする所を終った。おしなべて云ふときは、今日の活動寫眞界はトリックを軽蔑して居る。これは撮影技術上の自然主義から始てゐるらしい。然し私はトリックはトリックとして進むべき方向があると■思ふ。谷崎潤一郎氏も云って居られる様に、アランポーの短篇だとか、［又は］同氏自身の諸作だとかいった様な、美しく怖ろしいものを寫眞劇に仕組むのには、どうしてもトリックの應用が必要なのである。
トリックの進むべき道は、散文詩の方向である。
（おはり）

江戸川乱歩紹介済み資料

江戸川乱歩の資料は、これまでいくつかの本や雑誌で紹介されてきた。

どのようなものがあったのか、以下にまとめてみた。

『江戸川乱歩推理文庫（57）わが夢と真実』講談社　一九八八年
- 欺瞞系譜
- 探偵小説トリック分類表

『江戸川乱歩推理文庫（59）奇譚／獏の言葉』講談社　一九八八年
- 奇譚

『江戸川乱歩推理文庫（64）書簡　対談　座談』講談社　一九八九年
- 江戸川乱歩・井上良夫往復書簡（一部）
- 横溝正史宛書簡
- その他書簡（森下雨村・小酒井不木など）19通分

『文学』岩波書店　第三巻第六号　二〇〇二年十一・十二月「写真劇の優越性につきて」

『江戸川乱歩　誰もが憧れた少年探偵団』河出書房新社　二〇〇三年「悪魔ヶ岩」

『国文学解釈と鑑賞別冊　江戸川乱歩と大衆の二十世紀』至文堂　二〇〇四年「怪物」

『子不語の夢』乱歩蔵びらき委員会　二〇〇四年　江戸川乱歩・小酒井不木往復書簡

『江戸川乱歩と13の宝石』光文社　二〇〇七年「薔薇夫人」

『横溝正史旧蔵資料』世田谷文学館
二〇〇四年　横溝宛江戸川乱歩書簡（CD-ROM）
書簡は世田谷文学館蔵、立教大学寄託資料には書簡の複写あり

立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

『大衆文化』
創刊準備号　二〇〇八年三月「二銭銅貨」草稿
第二号　二〇〇九年九月「D坂の殺人事件」草稿
第三号　二〇一〇年四月「人間椅子」草稿
第五号　二〇一一年四月「活動写真のトリックを論ず。」
第六号　二〇一一年九月「映画論」

『センター通信』
創刊号　二〇〇七年一月「二銭銅貨」荒筋
第二号　二〇〇八年七月「中央少年」
第三号　二〇〇九年三月「黄色団」
第四号　二〇一〇年三月「試験騒ぎ」
第五号　二〇一一年三月「一年間の早稲田生活より得たる感想」